

大垣市議会 経済委員会には統一会派を排除

5月8日、平成26年度第1回の臨時議会が開催され、議長に高橋滋氏、副議長に鈴木陸平氏、監査委員に田中孝典氏が選出されました。また、委員会構成も決まり、私は昨年に引き続き文教厚生委員会に所属することになりました。この2年間、議会改革に取り組んできましたが、今回は異常な委員会構成の実態についてお知らせします。

大垣市議会議員 笹田トヨ子

議会改革に向けての 2年間の歩み

平成24年5月に、「議会改革」一点で共産党と市民ネット等6人の議員で統一会派を結成しました。そして、統一会派として、テレビ放映、一問一答方式の一般質問、議会便りの改善や議会報告会の実施等を要望してきました。その中で、議会便りの一般質問者の氏名を掲載するなど一部改善が行われました。しかし、大部分の改善策は実施されていません。私たちは、統一会派として議会報告会を各地域で実施しています。

経済委員会 自民・公明・民主の会派で独占

委員会構成を行うにあたり、統一会派の岡田議員と野田議員は第一希望でまた私は第2希望で経済産業委員会を希望しました。しかし、誰も経済委員会に入ることにはできませんでした。経済委員会の構成は、自民・公明・民主の3会派の特定の議員で占められており、このような状態は私が知る限り12年間は続いています。

大垣市議会の委員会は常任委員会は企画総務・文教厚生・建設環境・経済産業の4委員会があり、議員はどこかの委員会に所属することになっています。また特別委

員会は市民病院と子育て支援日本一対策の2委員会で、2年に1回どちらかの特別委員会に所属することになっています。

委員会構成のあり方について、大きな会派はそれぞれ専門分野を分担することはあると思いますが、新人議員や一人会派の議員は少なくともすべての委員会を一度は経験できるように配慮すべきです。ましてや、希望を出している統一会派は自民クラブに次いで大きい会派です。市民の声を公正に各分野に反映させようとするならば、統一会派の議員を経済委員会に入れるべきです。しかも経済委員会の定数は6ですが、今回5人しか埋まっておらず、空席があるにもかかわらず、統一会派の議員を入れさせませんでした。

グリーン車料金裁判3議員陳述書提出

5月22日、6回目のグリーン車裁判が行われます。結審になる可能性があり、それに向けて原告及びグリーン車料金の返還に取り組んできた岡田・野田・笹田の3議員は陳述書を提出します。その一部を掲載します。

グリーン車料金返還請求第6回裁判

日時：5月22日(木)午前10時より

場所：岐阜地方裁判所 302法廷

バス乗車希望の方は 78-6865までご連絡下さい

(笹田トヨ子の陳述書より)

・・・税金の使われ方について市民の関心は強まっていた。公費を使って行われる議員の視察についても関心は高く「視察と言っても何をしているのかわからない」「きちんと視察報告を行うべきだ」といった声が出ておりました。視察に使われる費用については常任委員会で一人当たり12万円、特別委員会で8万円、海外行政視察では一人当たり90万円と予算化されていましたが、視察の実務については議会事務局任せになっていました。ある時、市民から視察費用について「何にどれだけ使うのか」という質問があり、その内訳について議会事務局に尋ねたところ、「実はグリーン車料金も入っているんです」と言われ、視察の費用に乗っていないグリーン車料金も含まれていることがわかりました。次の年(平成24年)、私たちは議会改革統一会派を結成し、議会改革の一環として、この視察費用について調査することとなり、情報公開で「行政視察に係る決裁書類一式等」を取り寄せ、利用していないグリーン車料金が視察旅費に含まれていることが明らかになりました。

・・・「大垣市職員の旅費に関する条例」は昭和31年に制定されています。その時から特別車両料金(当時は2等車)の支給が盛り込まれています。その当時は実際特別車両に乗っていたと思われるが、いつから特別車両を利用せずとも支給される今の状態になったのかははっきりしません。共産党の北村修保元議員の話では、はじめて議員になった昭和47年当時からグリーン車には乗っていないということでした。少なくとも40年以上、利用しなくても支給される状態が続いていたことが明らかです。